

## 第28回 Pitch to the Minister 懇談会 “HIRAI Pitch” 議事概要

### 1. 開催日時・出席者等

- 日 時：平成31年2月5日（火）17:30～18:40
- 場 所：中央合同庁舎8号館10階 平井国務大臣室
- テーマ：世界のスタートアップ・エコシステムと日本
- 招へい者：Victor Mulas, Technology and Markets Unit, Finance, Competitiveness and Innovation GP, The World Bank（世界銀行）
- 出席者：平井国務大臣、左藤副大臣、上山 GSTI 議員、幸田内閣府審議官、赤石政策統括官（科技）、石井企画官（科技）、須藤参事官（宇宙）、仁科参事官（知財）、三輪政府CIO（IT）、柴崎参事官（IT）、寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

### 2. Victor Mulas 氏からの説明

- 世界銀行では、途上国のみならず先進国も含めた10以上の国・都市でスタートアップ・エコシステムの調査・分析を実施している。同調査の目的は、各エコシステムのギャップを特定し、それに基づく政策提言を主に途上国に対して行うこと。
  
- 世界における国境を超えるモノの移動量と情報量を比較すると、モノについては近年頭打ちになっているのに対し、情報量は指数関数的に増加している。つまり、世界はデジタル化に向けて大きくシフトしており、これがイノベーションやスタートアップに大きく関係している。
  
- 近年のイノベーションの中心はスタートアップ。スタートアップは、既存産業を“破壊”し、新たな産業を生み出している。例えば、ホテル業界はAirbnbに大きくシェアを奪われている。スタートアップのトレンドを示すデータとしてユニコーン数を見てみると、近年急激に増加していることが分かり、変化のスピードが分かる。
  
- 国別の状況に目を向けてみると、世界の大企業トップ500は概ね経済規模、即ちG8の順番に並んでいるが、ユニコーン数は必ずしもその順番通りではない。日本の状況を見てみると、大企業トップ500では3番目に多く52社入っている一方で、ユニコーン数は8番目で3社となっている。つまり、日本のポテンシャルを十分に生かしているとは言えない。対照的に、イスラエル、スウェーデン、シンガポール、韓国、コロンビア等の国々はGDPレベルに比して多くのユニコーンを輩出している。
  
- スタートアップ・エコシステムの中心は都市。各国のユニコーン数に注目してみれば、実際に、中国では83%が3都市、米国では80%が4都市、インドでは77%が2都市、イギリス

では62%が1都市に集中している。つまり、スタートアップ・エコシステムの鍵は、スタートアップ創出のハブとなる2-3の都市を如何にして形成するか、という点。

○スタートアップ・エコシステムには核となる4つの要素がある。①まずはスキルで、タレントのプールからスタートアップ設立に求められるチームを形成する。②次に、サポートインフラ。これにはメンター、アクセラレータ、インキュベーション等が含まれる。特にアクセラレータは注目に値し、トップレベルのアクセラレータはスタートアップ成功への登竜門となっていることから「新たな大学」とも呼ばれている。③ファンディングについては、創業期のスタートアップへのシードファンディングとスケールアップのためのファンディングの2つが重要。④最後に、コミュニティ。これは言い換えればソーシャル・キャピタルのこと。例えば、シリコンバレーは大量のソーシャル・キャピタルを蓄積しており、世界最大のハブとなっている。

○テクノロジー・スタートアップ・エコシステム形成のためには、上述4つの要素を政策的にサポートすることが重要。ニューヨーク市を例に挙げれば、同市では2008年の金融危機以降、当時のブルームバーグ市長がテクノロジー・スタートアップを新たな産業として興すと宣言し、エコシステムに欠けている要素、即ちギャップを特定してそれを埋める政策を実施したことで、スタートアップ・エコシステムが急速に成長し、世界第2位のエコシステムとなった。実施した政策は、シードマネーの供給、タレントの供給源となるテック系キャンパスの設立、コワーキングスペースやアクセラレータの支援・ネットワーク化、イベントやコンペの促進。

○アクセラレーション・プログラムは、起業経験を有するメンターからのアドバイスと同様に、スタートアップを成功へと導く最も重要なサポートプログラム。他方で、アクセラレータは必ずしも「特効薬」ではなく、その質が問題となる。Y-Combinator、Techstars、500 Startupsは世界トップクラスのアクセラレータであり、こうしたアクセラレータはこの業界での「Ivy League」とも呼ばれており、プログラム合格率はハーバード大学よりも低いものもある。トップレベルの国・都市では、ファンディングによるアクセラレータの質改善や世界トップレベルのアクセラレータの誘致などの支援策を実施している。スウェーデンの例は興味深く、アクセラレータをビジネスのレベル毎に3段階に分けて支援している。

○投資家や質の高いメンターとの接続という点で、スタートアップにとって、コミュニティやソーシャル・キャピタルは重要。ガザ地区・ヨルダン川西岸地区のスタートアップ・エコシステムを例にとれば、アクセラレータ、ネットワーキング・イベント、大学がコミュニティの中心部にあることが分かる。また、これまでに調査を実施したエコシステムの世

界的なネットワークを見ると、米国がハブとなっていることがよく分かる。世界トップレベルのエコシステムでは、政策的にコミュニティやソーシャル・キャピタルの形成を支援している。政府支援の下、フィンランドでは Slush、ニューヨークでは NYC BigApps 等のイベントを開催することで、世界的なスタートアップ・ハブを形成している。

○起業家のスキルや経験はエコシステムの基本的な構成要素の一つ。テック系スタートアップの場合には、技術とビジネスの両方の素養が必要になるが、特にビジネス感覚や経験が重要となる。成功している起業家はビジネス経験を有する 40-45 歳が最も多いというデータがあるが、若い起業家は如何にして無駄なく、早くビジネススキルを身に着けるか、という点が重要。世界トップのエコシステムでは、大学が様々なアントレプレナーシップ・プログラムを提供している。例えば、スウェーデンでは、市内の5つの大学が連携して、起業家教育プログラム、プレ・アクラレーション・プログラム、ビジネス・アクセラレーション・プログラムを提供している。

○政策上の重要なステップとして、以下の4つが挙げられる。①スタートアップ・エコシステムの特定・分類、②エコシステムの評価とギャップの特定、③必要な政策立案と国際的なネットワーク形成のための取り組みの特定、④エコシステムのステークホルダーからコンセンサスを得た上での政策実施。①については、他国を事例として考えれば、2-3のハブの特定が適当。

### 3. 主な質疑応答・議論

○日本でも部分的にエコシステムが形成されつつあるが、ユニコーンを多数輩出するレベルのエコシステムを有する都市はない。米国では4つのハブ、中国では3つのハブということに照らせば、日本では2-3のハブの形成が求められるのではないかと、との意見があった。これについて、Mulas 氏より、トップクラスの都市はユニコーン創出など世界クラスのスタートアップ形成を担うが、それに次ぐ第2層の都市は国内レベルの良質なスタートアップ創出を担い、それをトップクラスの都市へと繋ぐ。さらに、第3層の都市がローカルレベルのエコシステムを形成し、第2層の都市へと接続する。こうした全体構想が必要、との意見があった。

○スタートアップ・アクセラレータは日本にも展開されてきているものの、質の点で世界クラスまで上昇させる必要がある、との意見があった。

○現在の日本の大学における起業家育成プログラムと、世界トップクラスのスタートアップ・エコシステム形成のために求められるそれとは大きなギャップがあり、大学のカリキュラム改革や関連する取組の抜本強化が必要、との意見があった。これに対し、Mulas 氏

からは、大学内においてもエコシステムの形成が必要であり、大学カリキュラムについていえば、成功事例は全ての学部の授業に起業家教育を組み込むこと。また、マルチレイヤーのアクセラレータも成功の鍵、との意見があった。

○大学での起業家教育は重要である一方で、日本では「誰が教えるのか」という問題もある、との意見があったのに対し、Mulas 氏から指導者を海外から連れてくるのが一案であり、中国や韓国ではそのようなモデルになっている、との意見があった。

○サステナビリティも重要との意見があったのに対し、Mulas 氏より、成功したスタートアップが多くの社員を採用し、そこから新たな起業家が創出されたり、成功した起業家がメンターになって人材育成やソーシャル・キャピタルの形成されることが重要、との意見があった。

○スタートアップ・エコシステムの強化のためには、クリティカル・マスが必要になるとの説明があったが、起業家に対する日本ではマインドセットが弱い、との意見があった。これに対し、Mulas 氏より、ニューヨーク市でも多くのスタートアップが失敗するが、成功したスタートアップが新たな雇用を創出することで失敗した者もそうしたスタートアップに採用される、との説明があった。

○日本では起業家のキャリアパスが不明確であるという点に対し、Mulas 氏より、例えば米国では、まずは大学に入学してアントレプレナーシップ関係の授業を履修し、卒業後にアクセラレータ・プログラムで投資獲得に必要なスキルを身に付け、その後、VC 等から投資を募るというキャリアパスが一つのモデルとなっている、との説明があった。

(了)

(速報・仮訳のため事後修正の可能性あり)